

2020年9月10日

各位

株式会社北洋銀行

**(株)格付投資情報センター(R&I)による「顧客本位の投信販売会社評価」
において「S」の評価を取得しました**



北洋銀行は、(株)格付投資情報センター(R&I)による「顧客本位の投信販売会社評価^{※1}」(以下、本評価)において、「S」の評価を取得いたしました。

本評価は、投資信託の販売において、銀行や証券会社などがいかに「顧客本位の業務運営」を行っているか、その取組方針や取組状況を(株)格付投資情報センター(R&I)が中立的な第三者の立場から評価するものです。

当行においては、お客さまのライフステージに合わせた各種ツール(パンフレット・タブレット等)を活用した投資信託のご提案や、2020年4月の経営理念の改定をはじめ、経営トップが主導して「顧客本位の業務運営」を推進している点などが評価され、2018年12月に取得した「A⁺」の評価から1段階引き上げとなりました。

引続き、『「安定的な資産形成・資産承継を実現するための取組方針」～「お客さま第一主義」(フィデューシャリー・デューティー^{※2})の徹底～』に基づく「行動計画」および「具体的取組」を実践し、お客さまにとって真に喜んでいただけるよう、より良い提案・行動に努めてまいります。

※1 「R&I顧客本位の投信販売会社評価」(以下、「本評価」)は、投信販売業務を行う販売会社の「顧客本位の業務運営」の取組に関するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。R&Iが本評価を行うに際して用いた情報は、R&Iがその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、R&Iは、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。また、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではなく、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。本評価に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

※2 フィデューシャリー・デューティーとは、お客さまのニーズを正確に捉え、適切な説明や情報提供を実施し、お客さまの意向や利益に真に適う金融商品やサービスを提供することをいいます。

以上

評価公表日：2020年9月10日

評価対象	評価符号
<p style="text-align: center;">北洋銀行</p> <p>【会社概要】 北海道のトップの地位にある地銀。1998年に北海道拓殖銀行の道内営業を承継。</p>	

【評価引き上げ】

改定した経営理念に「お客さま本位」を冒頭に盛り込むなど経営トップが主導してFDを推進している点や継続的に高度な専門性、職業倫理習得に取り組んでいる点、取扱投信の選定やモニタリングをより精緻に実施することに取り組み始めた点などを評価し、「A+」から「S」に引き上げた。

評価のポイント

- 顧客本位の業務運営に係る方針等の策定・公表等
改定した経営理念の冒頭に「お客さま本位」を盛り込んだほか、顧客本位の業務運営（Fiduciary Duty：FD）を反映した行動規範を策定、業績評価体系も大幅に見直すなど、経営トップが主導してFDを推進していると評価できる。
- 顧客の最善の利益の追求
顧客に最善の利益を提供するために必要となる高度な専門性を社員に習得させる各種研修や資格取得の支援制度のほか、FDを企業文化として定着させるための施策も継続して実施していると認められる。
- 投信販売方針策定及び販売、レビュー
投信等の販売方針は明確であり、販売実績もその方針と一定程度合致している。顧客への提案に必要なツール類が整備されているほか、営業員のスキル向上のための取り組みも継続して実施していると認められる。
- 取扱投信の選定・モニタリング
取扱投信の選定、モニタリングはともに明確なプロセスにより実施されていると認められる。取扱投信のラインアップに関する分析や新規採用時の定性評価を外部の評価会社に委託、モニタリングも定量評価を活用し始めた点は評価できる。
- 従業員に対する適切な動機づけの枠組み等
営業店の業績評価は、収益だけでなく主にFDへの取り組みや人材育成、顧客からの評価などを重視する体系に変更されたほか、従業員も残高や顧客からの評価、販売姿勢で評価されるなど、従業員に適切な投信販売を実践させるための施策に取り組んでいると認められる。

「R&I 顧客本位の投信販売会社評価」について

銀行、証券会社などが、いかに投資信託の販売において「顧客本位の業務運営」を行っているか、その取組方針や取組状況を依頼に基づき、中立的な第三者の立場から評価します。投資信託の購入に際してアドバイスを必要としている個人投資家が販売会社を選ぶ際に、この評価を参考指標として利用することを想定しています。

評価符号とその定義は以下の通りです。

符号	定義
SS	顧客の最善の利益を図るための取組みが十分に行われており、非常に多くの優れた要素がある。
S	顧客の最善の利益を図るための取組みが行われており、多くの優れた要素がある。
A	顧客の最善の利益を図るための取組みが行われており、優れた要素がある。
B	顧客の最善の利益を図るための取組みが行われているが、改善すべき要素がある。
C	顧客の最善の利益を図るための取組みが不十分であり、改善すべき要素が多い。

(注) S と A については、上位評価に近いものにプラスの表示をし、それぞれ S+、A+ と表示することがあります。プラスも符号の一部です。

R&I 顧客本位の投信販売会社評価は、投信販売業務を行う金融事業者の「顧客本位の業務運営」に関する R&I の意見であり、事実の表明ではありません。十分信頼できると判断される情報源からの情報に基づき評価を実施していますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。この評価情報の利用によって何らかの損害が発生した場合、その原因がいかなるものであれ、R&I は一切の責任を負わないものとします。R&I 顧客本位の投信販売会社評価は R&I 投信定性評価・定量評価レーティングとはそれぞれ独立のものであり、互いの評価に影響を与えるものではありません。R&I 顧客本位の投信販売会社評価の業務は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第 299 条第 1 項第 28 号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。